

第23回  
ふゆトピア研究発表会  
論文集

平成23年1月21日

2011ふゆトピア・フェアin札幌 実行委員会

# 手作りキャンドルによる冬の“あかり”の演出 ～冬のろうそくのあかりが地域と人をつなぐ～

折谷 久美子<sup>※1</sup>

## 1. はじめに

北海道の南に位置する道南圏域は、松前の城下町や風光明媚な駒ヶ岳・大沼、函館市を中心とした歴史的建造物群など数多くの観光資源を持ち、年間約700万人の観光客が訪れる北海道の中では比較的温暖で降雪量も少ない地域です。この地域では、地域と行政が連携し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域づくりを目指す「シーニックバイウェイ北海道」が展開されており、函館・大沼・噴火湾ルート、どうなん・追分シーニックバイウェイルートの2つのルートが認定されています。函館・大沼・噴火湾ルートでは、代表的な取組の一つに、冬の夜空の下、国道や道道、市道沿線などに手作りキャンドルを設置し、幻想的なあかりで道路空間を演出する活動として「シーニック de ナイト」があります。ここでは、その「シーニック de ナイト」の活動と「シーニック de ナイト」の活動から参加体験型へと発展してできた「光の小径」の活動をご紹介します。

## 2. 活動のきっかけ

「シーニック de ナイト」は、国道5号函館新道沿線の植樹帯でお花の維持活動を行っている函館花いっぱい道づくりの会（構成団体27）の活動である「はこだて花かいどう」の活動がきっかけとなっています。

函館花いっぱい道づくりの会では、2004年から活動を開始し、毎年6月に植栽し、11月頃に撤去を行います。撤去する時、「このままお花を抜いて捨ててしまうのはもったいない」との声が多数あったり、また、お花の維持活動期間中は雑草取りや水やりなど頻繁に各団体と会う機会が多くありますが、撤去後は春まで一度も会うことなく、各団体それぞれが寂しい思いを感じていました。そこで、撤去した花を押し花にして保存し、牛乳パックの中に水と押し花を入れて凍らせて作ったフラワーアイスキャンドルを同沿線に設置し、あかりを灯す活動として「シーニック de ナイト」が始まりました。

## 3. シーニック de ナイトの紹介

「シーニック de ナイト」は、2006年12月から始まり、昨年度まで継続して4回実施しています。昨年度は、2010年2月に、国道5号函館新道沿線や道道函館上磯線沿線、宮川神社周辺（函館市館町）、南茅部公民館周辺（函館市川汲町）、函館市地域交流まちづくりセンター周辺、大沼国定公園の計6箇所で開催しました。また、「シーニック de ナイト」の鑑賞と地域の文化や食と融合させたバスツ

アーも合わせて実施し、一般市民や観光客など約30名が参加されました。



写真1 函館新道の様子

## 4. 手作りのあかり

「シーニック de ナイト」で使用しているキャンドルは大まかに2種類に分類されます。1つは、1回の活動で溶けて無くなる氷のアイスキャンドルと、もう1つは、保存ができて何度も使い回して使用できるワックスキャンドルです。両方とも、材料は違いますが共に牛乳パックを利用し、各団体や地域住民、観光客など大勢の人の手によりできあがる手作りキャンドルです。

## 5. 活動の広がり

「シーニック de ナイト」は、国道や道道など道路沿線を中心に行われている活動ですが、幻想的なキャンドルのあかりが人に感動を与えてくれます。そこで、地域住民や観光客など大勢の方に見て欲しいとの思いから、五稜郭公園や元町公園、函館山登山道など函館を代表する観光名所で参加体験型イベント「光の小径」を実施しました。

## 6. おわりに

1本のキャンドルが完成されるまでには、牛乳パックの収集やキャンドル作りなど様々な過程があり、毎年大勢の方との交流を深めながら楽しく実施しています。キャンドルに火を灯すのも人の手であり、大勢の方の手によって作られたキャンドルに込められたぬくもりが伝わり、それが1つの力強い輝きとなり、見る人の心に感動を与えてくれるのだと思います。

「シーニック de ナイト」や「光の小径」の活動を通じ、大勢の方との交流をさらに深めることができ、また、新たな人との出会いもあります。この手作りキャンドルによる活動が、「地域」と「人」をつなぐ「光の贈り物」と信じ、今後も活動を続けていきたいと思っています。

※1 NPO 法人スプリングボードユニティ 21